

DOCUMENTS CONCERNING  
SECRET WARTARE

VERY SECRET

秘密戰関書類

Hand 1946

RS 92390  
Cincpac-Cincpoa  
2- 21 875

170185

国立公文書館	
分類	
配架番号	3 A
	13-12



官副	長隊

0001

津防第四一號

地方側指導資料送付二周之件通牒

昭和十九年十月二十日 津防第一八八〇部發

南 地区 區隊 中

予自予日以降各地方ノ實狀ニ般ニ現地各指導  
 機關(警察署町村役場等)ニ封シ別紙印刷物  
 配布シ人心ノ安定ト軍協力ノ促進ヲ期スル  
 二付參考ノ身送付ス

送下本要目ヲ以テ地方側指導ノ根本方針トシテ

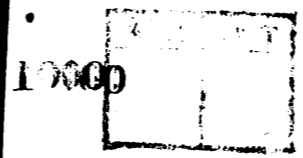


陸

軍

皇軍ハ本島ヲ空襲シテ敵ヲ撃滅シテ遺骸ナク復讐ヲ遂ゲタ  
 初陣ニ貴重ヲ体験ヲ得テ我等ハ更ニ必勝ノ信念ヲ固メテ次ノ事ヲ  
 實行シ擧テテ戦勝ノ一途ニ邁進スルコトヲ誓フハク  
 一、戦ハ肉ヲ切ラセテ敵ノ骨ヲ断ルモノダ  
 我等ハ難局ニ遭遇スル毎ニ愈々敵愾心ヲ振ヒ起シ何處マテモ勇戦  
 ニ戦ヒ抜クワ  
 二、我等ハ皇軍ヲ絶對ニ信頼シ其ノ作戰行動ヲ容易ニスル爲メ至々至々  
 ニ協力シメク  
 三、家ヲ整ヘ非常ニ備ヘテ後顧ノ憂ナカラシメ身ヲ挺シテ我家ト我師ト  
 防衛ニ邁進シメク  
 四、一人一物一草一木ヲ雖ヒスヘテ戦ヲテマル平素ニ教培スル元氣ヲ増産シ  
 五、敵ノ宣傳ヲ流言ニ迷ハズ軍秘密ヲ保護我等防衛陣ヲ強化シメク

0002



誓



軍

日本艦艇表  
台湾海峡空襲結果

艦名	種類	損傷	備考
航母一	飛母八	全滅	非行機
戰艦二	戰艦二	海中没	未歸還
巡艦三	巡艦四	海中没	三二機
巡艦六	巡艦六	海中没	
其他	其他	其他	
註 本戰身空襲中艦空襲上呼稱			

0003

海軍省第一一號

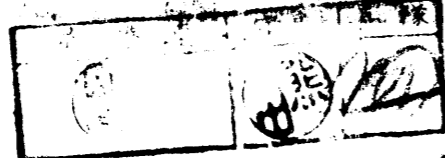
「空襲警備計画設定上ノ基準」施行ノ件

昭和十九年十二月十四日

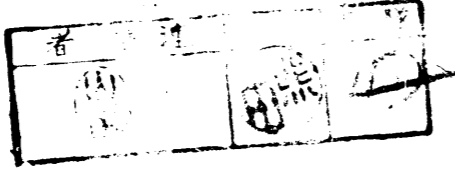
海軍省第一六一六號

球第七〇七一部隊長殿

總務員警備要綱第四十三條第一項ニ基テ首領ノ件別章「第三」ノ規定海軍大臣ヨリ關係各省大臣ニ通告セラレタル旨照會アリキルニ付一部施行ス



1007



00

寫

沿岸警備計畫設定上之基準

極秘

閱覽範圍  
警備業務主任者限

昭和十九年十月十日  
陸軍省  
海軍省

昭和  
19.12.17  
1648  
第二步

0003



第一一號

昭和十九年十二月十四日

第一六一六號

「沿岸警備計畫設定上之基準」施行ノ件

陸軍省  
海軍省

第一一號  
第一六一六號

海



沿岸警備ニ關スル諸般ノ施策ハ皇國必勝ノ大信念ニ徹シ舉國  
烈々ニ傳統ノ精神ヲ昂揚堅持スルヲ以テ其ノ根基ト爲シ徒ニ  
人心ヲ刺戟シ苟モ志氣ヲ萎靡セシムルガ如キコトナカラズ

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 本基準ハ總動員警備要綱ニ基キ陸海軍ノ行方防衛ニ留意シテ  
官民警備機關ノ行方沿岸警備ノ計畫設定上取敢ル必要ナ  
ル事項ニ關シ提示スルモノトス

二 本提示ニ基キ細部特ニ情勢ニ即シ地方的特性ニ應スル警備ノ  
重點、緩急等ハ軍司令官又ハ鎮守府司令長官、警備府  
司令長官若クハ獨立艦隊司令長官(以下陸海軍司令官ト  
稱ス)ノ地方長官又ハ其他ノ關係地方官廳ニ對スル提示ニ據  
ルモノトス

# 第一 警備方針

一 沿岸警備計畫一般之方針ハ敵ノ本土來攻ヲ考慮シ非常事態ニ對處スル有形無形ノ國內必勝態勢ノ強化整備ニ備フ本土沿岸要域及島嶼ニ於ケル警備態勢カ強化ヲ圖ルヲ主トシ併シ敵カ水上艦艇ヲ利用シテ行フ沿岸砲撃手、艦亂的奇襲上陸又ハ各種謀略ニ對スル防衛遺憾ナカラシムルモノトス

二 沿岸警備計畫陸海軍ノ行フ作戰完遂ヲ主眼トシ官民警備機關ノ強力且有機ナル警備活動特ニ其ノ統合力ヲ遺憾ナク發揮シテ陸海軍ノ行フ防衛ニ則應ゼシムルト共ニ防衛上ノ要請ニ基ク陸海軍ノ請求充足ニ支障ナカラシムル如ク設定ス

沿岸警備計畫ノ設定ニ方リテ防衛ニ任スル陸海軍部隊ヲ中

核トスル地域的獨立性ノ保持ニ關シ考慮ス

三 沿岸警備計畫陸海軍ノ行フ防衛ニ則應シ沿岸及島嶼ノ地形狀況、氣象ノ交感、住民ノ生活、重要警備對象ノ狀態等ヲ考慮シ警備ノ實施ヲシテ情勢ノ特ニ時期及地域ニ應シ重點的ナラシムルト共ニ適宜警備ニ彈力性ヲ保持セシムル如ク設定ス

四 防空上重要地區ニ於ケル沿岸警備計畫防空計畫トノ融合ヲ適切ニシ現地ノ實情特ニ地域又ハ施設ノ要度ニ應シ防空ノ實施(空襲警備ノ實施)ト沿岸警備ノ實施トラシテ當時狀況ニ即シ實況ニ應ジテシムル如ク設定ス

五 沿岸警備ニ關スル計畫準備ニ方リテハ諸般ニ互リ特ニ無形ノ要素ノ昂揚ヲ重視シ一般住民ト雖モ傳統ニ輝ク國土防衛ノ氣魄トノ翻魂ト振起ニ徹シ烈々タル威敵精神ノ堅持ニ遺憾ナカラシム

第二 沿岸警備ノ實施區域、主要警備地域及重要警備對象

六 沿岸警備ノ實施區域

本土沿岸地域及島嶼と

但シ内海ニ於ケルモノヲ除キ又日本海ニ面スル本州沿岸地域ニ在リテ特

ニ警戒ノ必要トスル區域及軍事上重要ナル施設等ノ所在地トス

七、主要警備地域及順位

警備スルキ主ナル沿岸地域及順位概テ左ノ如シ

一 臺灣、南西諸島

二 北海道特ニ南部沿岸地域及千島列島、伊豆七島

三 關東及三陸各沿岸地域、九州南部沿岸地域

四 東海道、紀州、四國各南部沿岸地域

六 朝鮮南部及西部沿岸地域

八 重要警備對象

主ナル警備對象ハ皇室、神宮ニ關スルモノノ外概テ左ノ如シ

一 港灣

二 沿岸鐵道、特ニ橋梁及隧道

三 沿岸主要工場又ハ事業場

四 沿岸又ハ島嶼ニ在ル通信施設

五 其他沿岸又ハ島嶼ニ在ル重要施設、主要物資集積所、軍

事上敵ノ利用スルキ虞アル地ノ所要ニ應ジ軍事施設

第三 沿岸警備要領

八 沿岸警備ニ關スル各種業務特ニ實效ノ發見ハ情勢ニ基キ陸海軍ノ行フ時期及地域ニ應

ズル防衛則應ジテ行フモノトス

十 沿岸警備ニ在リテハ非常事態下ニ於テハ治安ノ維持ニ萬全ヲ期シ以テ陸海軍ノ行フ取

動ノ基礎ヲ確保スルヲ第一義トシ且重要



警備對象ノ防護、敵ノ各種行動ニ對スル自衛、關係陸海軍部隊ニ對スル官民ノ協力ニ遺憾ナラズルモトス

士自衛ノ爲ノ對敵警備ニ在リテハ各警備機關ノ行動ヲ適切ニ統制スルト共ニ關係陸海軍部隊トノ連絡ヲ積極密接ニ特ニ陸海軍ノ作戦行動ヲ阻害スルカ如キコトナカラン

其海上ノ敵ニ對シ豫メ警戒ノ措置ヲ必要トスル場合ニ於テハ陸海軍司令官之ヲ地方長官又ハ其他ノ關係地方官廳ニ通知ス

一般ニ對スル前項ノ傳達ハ各地ノ實情ニ即スル適宜ノ方法トシ之ヲ傳達ノ範圍等ハ地方長官關係陸海軍部隊ト協議決定スルモトス

十三、自衛ノ爲ノ對敵監視及警戒ニ在リテハ關係陸海軍部隊ノ警備力ヲ適切ニ補足スル如ク警備ノ地域的ニ要度ト各種警備機關ノ特質トニ應ジ統一旦組織的ナラシムルニ留意ス

十四、警備通信ハ主要警備地域特ニ其地域的ニ要度ニ應ジ警備機關

關ト關係陸海軍部隊其他關係警備機關相互間ノ連絡系統ヲ組織化(副通信ヲ含ム)スルト共ニ關係陸海軍部隊ヲ中核トスル所要地域毎集約的構成ヲ考慮シ且連絡手段ニ關シ計畫準備ス

十五、重要警備對象ノ防護ハ軍事施設ヲ除ク外主トシテ其管理又ハ所有者ノ自衛若クハ官民警備機關ノ警備ニ依ルベキニ鑑ミ警備組織ノ強化特ニ其有機的連鎖ヲ圖ルト共ニ適時適所ニ警備力ヲ集中シ得ル如ク機動警備力ノ保有ニ勉メム

謀略ノ防遏ハ專ラ自衛警備ヲ滲透徹底ト警備力ヲ主体トシ謀略組織ノ素出破摧ニ俟ツヲ以テ地域ノ要度ト豫想スル謀略ノ特性トヲ考慮シ特ニ憲兵ト連絡協調シ且沿岸警備下ノ謀略封殺措置ニ關シ遺憾ナラズ

夫邊難ハ敵ノ上陸等ニ際シ危難ヲ避クル爲老幼其他非警備能

力者等ヲ危険ノ地域ヨリ避難セシムルモノニテ敵上陸等ノ虞大ニ  
方面ト時期トニ於テ其ノ要員施ヲ計畫準備ス

退去ノ國民擧テテ抗戰ニ徹スルノ主義ニ基キ一般ニ原則トシテ之ヲ  
認メリシモ之ニ伴ヒ必要トスル事項ニ關シテ情勢力ニ應ジ別ニ示ス

之救護ニ關シテ必要ニ應ジ隨時必要ナル方面ニ重點的ニ活動シ得  
ル如ク之カ組織ノ整備、彈力性ニ運用ヲ計畫スルト共ニ機動力  
ノ附與ニ關シテ考慮ス

大ニ主要警備地域中特ニ必要ナル地域ニ在リテ陸海軍ノ行フ防衛ニ  
則應スル如ク情勢ノ推移ト其ノ地域的ニ要度ト應ジ左記ニ關シ  
計畫準備ス

一、重要ナル鐵道、通信等延長施設ニ對シ連鎖足愛護林の  
警備

二、非常事態ノ生起ニ際シ陸海軍ノ行フ應急ニ米城、復舊作業

補給業務等對スル官民ノ協力

尤、帝國在鄉軍人會日防衛隊ハ左ノ任務ニ眼シ專ニ軍ノ指示ニ  
基キ行動ス

一、沿岸警備ニ任ズル防衛隊ハ陸海軍ノ行フ警備ヲ容易ナラ  
シムル如ク主トシテ情報収集、監視、警戒、連絡、工事、補給及

衛生、援助等軍ノ警備ニ附隨シテ之ヲ補助シ或軍隊ノ到  
着ニ對シ敵行動ノ主体トナリ必要ナル警備ヲ行フ

二、右ノ外防衛隊ハ一般ニ郷土ヲ中心トスル國民對敵抗戰中核  
トナリ陸海軍ノ行フ防衛ニ協力ス

官民警備機關ノ防衛隊ニ對スル連繫強調ハ防衛隊ノ特  
質ニ應ジ防衛ニ任ズル陸海軍部隊ニ對シ必要領ニ準シ適  
切ナラシムル如ク特ニ留意ス

三、沿岸ニ於テ軍事施設、軍隊ノ行動等軍ノ機密保持關  
シ特ニ留意ス

#### 第四 警備ノ爲メ施設救止備

一 警備ノ爲メ施設整備ハ主要警備地域ニ就キ陸海軍ノ行方防衛ニ別應スル如ク警備通信、警備道路、重要警備對象ノ防護、人防護ニ關シ計畫救止備ス

二 警備通信ノ救止備ハ既設通信網ノ防衛的整理及組織化ヲ主トシ且僻険地等ニ在リテ遞送烽火信號系、獨通信系ノ構成及此等ノ既設無線通信トノ連接等各種通信手段ニ有テハ創意ト工夫トヲ重トテ救止備ス

三 海岸ニ暴露スル重要警備對象ニ對シテ持テ主要ナル對シテ海ニ面スル側面ノ遮蔽、偽裝、防彈施設等ヲ行フ

四 主要警備地域中特ニ必要ナル地域ニ在リテ待避壕及自衛警備ノ爲メ所必要ノ障得物ヲ救止備ス

#### 第五 警備ノ爲メ裝備及訓練

一 官民警備機關ノ裝備ノ爲メ軍用兵器ヲ供セラル本則トス

00

警備ノ爲メ裝備ハ獵銃、日本刀、竹槍其ノ他有テ者モ之ニ依リテモ之ヲ活用トシ所在物料ヲ利用シ創意トシ勉メ且此等ノ適切ナル用法ヲ習得セム

二 訓練ハ主要警備地域ニ於テハ尤モ之ヲ重視シ且陸海軍ノ行方防衛ニ別應スル如ク地域的學識ニ應シ適切ニ緩急ヲ定メテ之ヲ行フ

三 防空上重要地區ニ於テハ訓練ハ防空訓練ヲ重點トシ警備上ノ要求ト防空トノ適切ナル調整ヲ圖リ之ヲ行フ

四 警備機關ノ訓練ハ幹部ノ指揮能力ノ向上ヲ重點トシ特ニ左ノ諸點ニ留意ス

一 各種警備機關ノ綜合訓練時ニ警備力ノ重點的運用

二 關係陸海軍部隊ノ協同運轉ニ關スル訓練

三 幹部以外ノ一般訓練ハ基礎的訓練ニ徹底ス之カ爲メ主トシテ演練スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 監視、警戒、要領

二 情報ノ收集及之ヲ傳達ノ要領

- 3 重要警備對象ノ防護ノ要領
- 4 待避緊急避難ノ救護ノ要領
- 5 訓練ノ實施ニ方リテハ無形ノ要素ノ昂揚ヲ特ニ重視スルト共ニ北海道其ノ地特ニ必要ノ地域ニ在リテハ情勢ノ推移ノ地域的特性等ヲ考慮シ訓練ノ重點ヲ逐次自衛ノ爲ノ對敵抗戰ニ指向ス
- 6 主要警備地域中ニ必要ナル地域ニ於ケル訓練ハ概ネ昭和十九年未ダ自達トシテ之ヲ概成ス

### 第六 島嶼ノ警備

7 主要警備地ノ島嶼ニ在リテハ其ノ地域的特性等ヲ考慮シ既述提示ニ據ルノ外警備ニ関スル諸般ノ計画準備ヲ更ニ強化シ特ニ在住民ノ總力ヲ

結集シテ直接戦力化シ軍上一體トシテ國土防衛ニ當ルヘキ組織態勢ヲ確立強化ス

8 一般ニ島嶼ノ食糧自給態勢ハ急速ニ強化スルト共ニ自給ノ關係ヲ考慮シ糧水等ノ確保ニ遺憾ナカラシム特ニ主要警備地ノ島嶼ニ在リテハ一年分ヲ目途トシ主食ノ確保ニ勉メ且破爆撃ニ對スル糧水ノ防護ノ分散貯藏ニ関シ措置ス

9 主要警備地ノ島嶼ニ在リテハ混亂ノ防遏ノ被害ノ軽減ヲ圖ルト共ニ軍ノ作戦行動ヲ容易トラスル爲陸海軍ノ行ヲ防衛ニ則應シ地勢ノ住民ノ生態等ヲ考慮シニ必要ナル老幼其他非警備能力者等ニ限リ島嶼内適地ヘノ事前移住ニ関シ措置ス

10 主要警備地ノ島嶼ニ在リテハ敵ノ利用スヘキ物資ノ施設等ノ隠匿破壊ノ破壞煥却ノ移送移設其他敵ノ自由ナル行動ヲ困難トラスル非常措置

二周シ関係陸海軍部隊ト密ニ連絡シ計画準備ス

第七 其ノ他

三 重要警備對象タルヘキ工場其他ノ施設ノ新設ノ防空ノ為ノ疎開及  
避難地ノ指定等ハ警備上ノ要求ヲ考慮シ主要警備地ノ沿岸地域ニハ  
勉メテ之ヲ避ク

001

報道宣傳  
防諜  
等ニ關スル縣民指導要綱

昭和十九年十一月十八日  
球第一六一六部隊

目次

第一方	針	次
第二要	領	
第三實	施	
一、情	報	集
二、防	收	
三、報	道	
四、其	宜	
	傳	
	他	

第一方 針

皇國ノ被命及ビ大東亞戰爭ノ目的ノ深刻ニ銘肝セシメ我方國體存亡ハ貞正勝敗ノ生死興亡ノ岐ルル所以ヲ認識セシメ眞ニ六十萬縣民ノ總躑起ヲ促シ以テ總力戰態勢ヘノ移行ヲ急速ニ推進シ軍官民共生共死ノ一體化ヲ具現シ如何ナル難局ニ遭遇スルモ毅然トシテ必勝道ニ邁進スルニ至ラシム

第二要 領

一、關係諸機關ノ任務

- (一) 一、球一六一六部隊  
大綱ヲ示シ全般ヲ統制スルト共ニ所要ノ機關ヲ以テ直接指導ス
- (二) 各兵團及各守備隊  
本要綱ニ基キ各々防衛擔任地域内ノ指導ニ任ズ
- (三) 沖繩憲兵隊  
本要綱ニ基ク實行ノ指導取締ニ任ズ

(四) 沖繩聯隊區司令部

本要綱ニ基キ全般ノ指導ヲ在郷軍人ノ指導ニ任ス

(五) 縣 警 局

本要綱ニ基キ其職内實務計畫ノ樹立實施ニ任ス

一、軍 八本編ノ指導ヲ在郷軍人ノ指導ニ任ス

確立シ其進歩タルノ實ヲ示シ以テ縣民ヲシテ積極的ニ軍ニ協力スルト共ニ絶對ニ軍ニ信頼シ如何ナル等懸ニ遭遇スルモ動搖混亂スル事ナク冷靜沈著ヲ處シ各職域奉公ニ邁進セシム

三、縣當局ノ治政ヲ極力援助シ縣民ヲシテ尊嚴ニシテ悠久ナル團體

念ノ下勵州不敗ヲ確信シ必勝ノ信念ヲ堅持セシムルト共ニ克ク時局ヲ認識シ僑人生活ハ國家ト共ニ存スルコトヲ知ラシメ總テヲ戰爭完遂ノ一途ニ集中シ以テ敵愾心ヲ旺盛ナラシメ奉公心ヲ昂揚セシム

四、常ニ民衆ノ指導ニ其ノ恩惠動向ヲ辨別シ我カ報道宣傳ノ效果

敵側諜報宣傳、謀略ノ企圖及内容ノ採査等敵策動ニ關スル情報收集ニ努メ敵ノ諜報、謀略並ニ宣傳行為ノ封殺ニ遺憾ナカラシム

三 實 施

一 情報收集

軍ハ絶ヘズ各防衛擔任部隊憲兵隊、聯隊區司令部及縣當局ト密接ニ連絡シ管内民情ヲ收集ス、之カ爲各部隊(機關)ノ民情報ノ報告要領ヲ左ノ如ク定ム

(一) 各兵團及守備隊

各防衛擔任地域ノ民情ニ就キ月報ヲ急ヲ要スルモノハ其ノ都度軍ニ報告スルモノトス

(二) 憲 兵 隊

一般民情特ニ軍官ニ對スル動向及管内防諜ニ就キ旬報、急ヲ要スルモノハ其ノ都度報告スルモノトス

(三) 聯隊區司令部

憲兵隊ニ準ズルモ報告ハ月報ヲ以テスルモノトス

(四) 縣 官 局

民情一般特ニ治安狀況、衣食住部面ニ於ケル安定狀況、民防衛狀況ヲ月報ヲ以テ、急ヲ要スルモノハ其ノ都度通報スルモノトス

二 防 諜

上陸作戰實施ニ先チ上陸地ニ諜者或ハ工作員ヲ潛入セシムルハ敵ノ重要手段ニシテ又近時敵ハ我カ將兵及官民所有ノ文書ニ依ル諜報ヲ特ニ重視シ之カ獲得ニ努力シアル現状ナリ  
諜者ニ本道ハ嚴密ナルト防諜觀念一般ノ狀況ニ鑑ミ一層ノ注意ヲ要ス

防諜教育ニ於ケル防諜ヲ強化シ軍ノ行フ防諜ト相俟テ諸施策ヲ實施スルニ努メ秘密戰活動ノ完封ヲ期ス

防諜教育ノ爲官民ニ對スル指導要件左ノ如シ

- 1 防諜精神ノ指導啓蒙ノ促進
- 2 官廳防諜教育ノ徹底
- 3 軍工事從事者ノ指導取締

- 4 軍ト直接交渉多キ外來者ノ指導
- 5 各町村ノ保甲制度化ニ依ル防諜活動ヘノ推進特ニ行動不審者發見時ノ連絡通報ノ積極迅速化
- 6 防諜違反者ノ取締ノ強化

三 報道宣傳

(一) 報道宣傳ハ陸軍省報道部ノ指導方針並ニ臺灣軍報道部戰時執務ノ要領ニ準據スル外軍防衛計畫ニ基キ軍ノ行動ニ即應セシムルヲ第一義トス

(二) 報道宣傳ハ自主的計畫的ニシテ全機關ハ軍ノ完全ナル統制ノ下ニ實施ス

- (三) 報道宣傳ハ事實ニ即シテ行ヒ誇張否曲空虛ナル報道宣傳ヲ戒ム
- (四) 常ニ戰局ノ推移民心ノ動向ヲ察シ機先ヲ制シ好機ニ投ジ人心ノ機微ヲ把握スルニ勉ム且民度ニ應ジ重要事項ハ反覆宣傳ヲ實施ス

四 其ノ他

北 祝 州



1 軍參謀部内ニ報道宣傳協議會ヲ設ケ必要ニ應ジ會員ヲ集合セシメ報道宣傳上ノ協議ヲ行フ

其ノ組織的表は一ノ如シ

2 敵ノ空襲沿岸砲撃、奇襲上陸、暴動等ニ關シテハ権限内ニ於テ迅速正當ナル報道宣傳ヲ實施シ民心ノ恐怖動搖ヲ防止スルモノトス

3 非常事態發生セル際ハ特ニ流言謠言ヲ防止シ治安確保ニ遺憾ナカラシム

4 貴重ナル體驗ハ之ヲ活用シ次期對策ノ完成ニ遺憾ナカラシム

附表第二

一、主 宰 者 軍參謀又ハ部附將校  
二、會 員 沖繩憲兵隊本部々員

沖繩總聯隊區司令部々員

沖繩縣 警 防 課 長

特 高 課 長

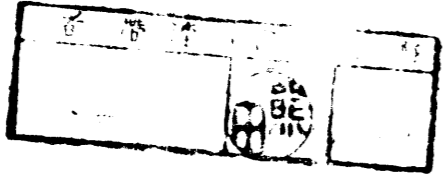
沖 繩 新 報 社 々 長

同 盟 通 信 那 覇 支 局 長

每 日 新 聞 那 覇 支 局 長

朝 日 新 聞 那 覇 支 局 長

放 送 局 長



00

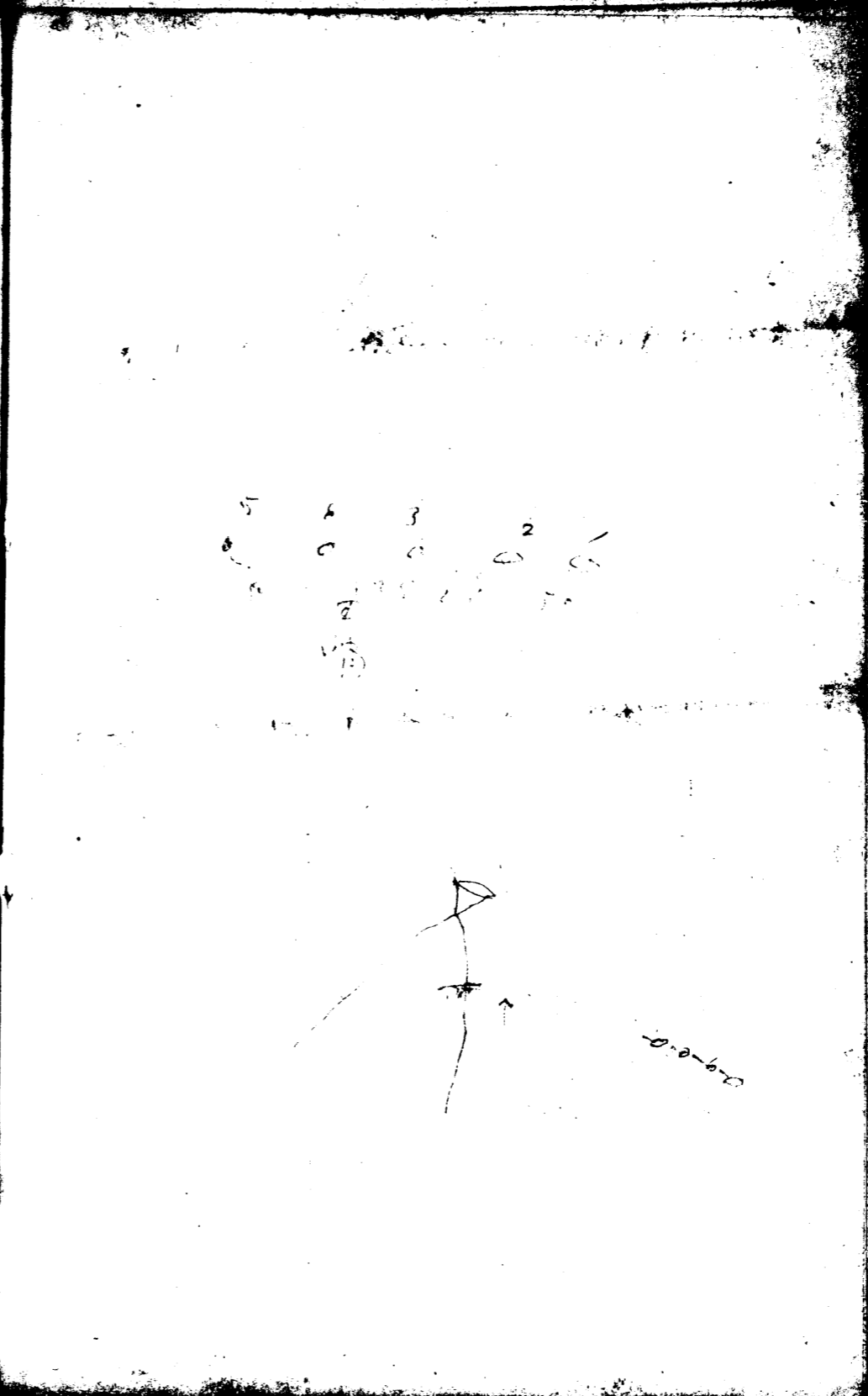
寫

昭和十九年十月四日內務省訓第九二三號

內務省總動員警備計畫

秘

內務省



目次

第一章 總則.....一

第二章 總動員警備一般要領.....一

  第一節 總則.....一

  第二節 總動員警備要員.....一

  第三節 總動員警備用通信及輸送.....一

  第四節 治安維持.....一

  第五節 重要警備對象物及主要警備地、總動員警備.....一

  第六節 機密保護.....一

第三章 各軍種警備要領.....一

  第一節 沿岸警備.....一

  第二節 陸警備.....一

  第三節 空警備.....一

  第四節 海警備.....一

内務省補助員警備計畫

第一章 總則

第一條 本計畫ハ昭和十九年八月十五日閣議決定「補助員警備要綱」  
(以下要綱ト稱ス)ニ基テ内務省ノ擔任事項ヲ定ム

第二條 内務省ノ擔任スル補助員警備ハ要綱及本計畫ニ基テ之ヲ行  
フモノトス

第二章 補助員警備一般要領

第一節 通則

第三條 地方長官要綱第六條第一項ノ規定ニ依ル補助員警備ノ實施  
命令ヲ受ケタルトキハ直ニ府縣補助員警備本部ヲ開設シ事務ノ  
進捗ニ適應スル如ク補助員警備ヲ實施スベシ其ノ陸海軍ノ戰時警  
備ニ關連シテ補助員警備ノ實施ヲ命ゼツレタル場合ニ在リテハ特ニ  
陸海軍戰時警備擔任官ト緊密ナル連絡ヲ保持スベシ

地方長官要綱第七條第一項ノ規定ニ依リ補助員警備ヲ實施シタル

トキハ直ニ其ノ旨ヲ内務大臣ニ報告スベシ

第四條 要綱第八條ノ規定ニ依リ地方長官ノ設定スル應府縣總動員  
警備計畫ハ沿岸警備、空襲警備、員警警備及服喪警備ニ付之ヲ定  
メ概ネ左ノ各號ノ事項ヲ規定スベシ

一 總動員警備機關ノ組織、編成、業務分擔

二 總動員警備要員ノ整備

三 總動員警備要員ノ召集、召集、編成、配置、給費

四 總動員警備ノ實施ニ協力セシムル團體等ノ指導

五 自衛警備ノ指導

六 總動員警備業務ノ實施

七 總動員警備用設備資材ノ整備

八 總動員警備要員又ハ總動員警備ニ必要ナル物件ノ管内及管外  
ニ對スル應援又ハ救援

九 總動員警備要員又ハ總動員警備ニ必要ナル物件其ノ他ノ檢送

十 總動員警備ノ實施ニ必要ナル關係各方面トノ聯絡協調方法

十一 總動員警備訓練

第五條 總動員警備計畫ハ有ラニル事應ニ適應スル如ク周到且具體  
的ナラシムルト共ニ情勢ノ變化ニ即應スル如ク弾力性ヲ保持セシ  
ムベシ

第六條 總動員警備計畫ノ設定ニ當リ注意スベキ事項概ネ左ノ如シ

一 總動員警備計畫設定等ノ爲必要ナル現地踏査等ノ履行

二 總動員警備要員、總動員警備用設備資材等ノ現在數、分布等  
ニ關スル調査

三 重要警備對象物ノ種類、名稱、分布及其ノ自衛警備力等ニ關  
スル調査

四 總動員警備ニ協力セシムル團體等ニ關スル調査

五 總動員警備上利用セ得ベキ交通、通信、通信其ノ他ノ各設施  
設又ハ物件等ニ關スル調査

六 前各號ニ關スル一覽表又ハ地圖等ノ整備

第七條 總動員警備計畫ハ事情ノ變化アリタルトキハ之ニ應ジ隨時修正スルト共ニ訓練其ノ他ノ方法ニ依リ常ニ檢討シ之カ改善ヲ圖ルベシ

第八條 總動員警備計畫ハ其ノ規定事項ノ性質ニ應ジ關係者ニ周知徹底セシメ置キ之カ實施ノ圓滑ヲ期スベシ

第九條 總動員警備訓練ハ其ノ他ノ實情ニ應ジ新卒警備、遊藝警備、良書警備等へ應接警備ニ付又ハ二種以上ノ非常事態發生シタル場合ノ警備ニ付適宜重點的ニ之ヲ施行スベシ

第十條 新卒警備訓練ヲ施行スル場合ハ特ニ陸海軍トノ聯繫ヲ緊密ニスベシ

第十一條 總動員警備訓練ノ施行ニ當リテハ訓練業務ノ選定、考定ノ作成、指導方法等ヲ適切ナラシムルト共ニ訓練ノ結果ニ付檢討ヲ加ヘ之カ成果ノ學藝ニ努ムベシ

第二節 總動員警備要員

第十二條 地方長官要綱第十六條ノ規定ニ依リ總動員警備ノ實施ノ

爲能力ヲ求ムル團體等ハ左ノ各款ニ掲グル者トシ關係各團ト聯絡ノ上豫メ其ノ出勤人員、分擔業務、配置等ニ付決定シ置クベシ

一 學校團體

二 青年學校生徒

三 青年團、女子青年團

四 神社防衛團

五 町内會（部落會）、俱樂部

六 其ノ他總動員警備ノ實施ノ爲必要ト認ムル者

第十三條 總動員警備要員ノ非常召集及非常退避ニ付テハ地方長官定メ置ムベシ

第十四條 前條ノ非常召集及非常退避ニ付計畫スベキ事項ハ左ノ如シ

一 非常召集命令ノ發令者

二 非常退避命令ノ發令方法

- 三 非常召集ノ種別及範圍
- 四 非常召集ヲ爲スベキ場合及範圍
- 五 非常召集又ハ非常召集ノ場所
- 六 應召者又ハ召集者ノ服裝及携帶品
- 七 其ノ他必要ナル事項

第十五條 總動員警備要員ノ部隊編成ノ基準ハ概キ左ニ依ルベシ但シ特殊ノ任務又ハ裝備ヲ有スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

分隊 隊員十名ヲ以テ編成ス

小隊 三個分隊ヲ以テ編成ス

中隊 三個小隊ヲ以テ編成ス

大隊 三個中隊ヲ以テ編成ス

各隊ニハ隊長一名ヲ、小隊以上ノ隊ニハ傳令若干名ヲ、中隊以上ノ隊ニハ副官ヲ附ス

第十六條 地方長官總動員警備要員又ハ總動員警備ニ必要ナル物件

ノ管内及管外ニ對スル應援又ハ救援ニ付計畫スベキ事項概キ左ノ如シ

- 一 應援又ハ救援ヲ爲スベキ場合
- 二 應援又ハ救援ノ種別、範圍
- 三 應援員又ハ救援物資ノ集積
- 四 應援員ノ部隊編成
- 五 應援員又ハ救援物資ノ輸送
- 六 應援員又ハ救援物資ノ被援地ニ於ケル引渡方法
- 七 其ノ他必要ナル事項

第三節 總動員警備用通信及輸送

第十七條 應府縣連絡警察電話及地方警察電話ノ機能ノ保持ヲ圖ル爲關係職員及警防員等ヲ以テスル修理班等ノ編成、所要器材ノ整備等必要ナル準備ヲ整ヘ通信社等ノ協同ニ於ケル復舊工作ノ迅速ヲ期スルト共ニ通信ニ關スル規定ノ整備等ニ依リ電話ノ利用

ニ適切ナル統制ヲ加ヘ通話ノ圓滑流通ヲ期スベシ

第十八條 副通信方法トシテ利用シ得ベキ他系統通信ニ付テハ豫メ其ノ所在地、通信能力等ヲ調査スルト共ニ警察電話不通等ノ場合ニ於ケル之カ利用ニ關シ關係方面ト具體的協定ヲ達ゲ置タベシ

第十九條 電氣通信施設ノ破壊又ハ故障ノ場合ニ當ヘ準備スベキ補助通信方法ハ概ネ左ノ如シ

一 傳 令

二 鳩

三 飛行機

四 烽火、手旗信號其ノ他ノ視聽通信

五 警鐘、煙火其ノ他ノ音響通信

第二十條 要綱第二十八條第二項ノ規定ニ依ル情報聯絡所ハ地方長官又ハ警察署長必要ニ應ジ所要ノ場所ニ之ヲ設置スベシ  
地方長官又ハ警察署長前項ノ規定ニ依リ情報聯絡所ヲ設置シタル

トキハ之ヲ關係警備機關ニ通知スベシ

第二十一條 地方長官補助員警備要員、補助員警備用資材等ノ檢査ニ關シ計畫シ置クベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 車輛又ハ舟艇等ノ整備又ハ借上
- 二 車輛又ハ舟艇等ノ被害ノ防止及補修
- 三 電報、列車等交通機關ノ利用
- 四 前各號ノ檢査方法不可能ナル場合ノ措置
- 五 其ノ他必要ナル事項

第四節 治安維持

第二十二條 情報ノ蒐集ヲ迅速ニシ且適切ナル宣傳ヲ實施スル爲必要ナル措置ヲ強化スルト共ニ宣傳、報道機關等トノ連絡ヲ密ニシ且檢閲、點札其ノ他ノ宣傳用器材ヲ準備シ置クベシ

第二十三條 流音者團ノ取締ニ付テハ流音者團發生ノ原因ニ對スル内偵警戒ヲ嚴ニシ町内會、部落會等ニ對シ流音者團ノ原因トナル



成アル電話、書信ノ防止其ノ他必要ナル指導ノ徹底ヲ圖リ之ガ未  
然防止ニ努ムルト共ニ流言妄語ノ發生シタル場合ハ早期ニ之ヲ發  
見鎮滅シ其ノ傳播ヲ防止スベシ

第二十四條 要觀察人及要注意人ニ付テハ其ノ種別、程度ニ應ジテ  
察内偵又ハ指導ヲ適切ナラシムルト共ニ進ンテ觀察線外ニ在ル反  
動、反軍其ノ他不穩策動ヲ爲ス虞アル者ノ發見ニ努ムル必要ニ應ジ  
豫防檢束ヲ行フ等之カ取締ノ徹底ヲ期スベシ

第二十五條 會館、出版、集會、新社及多衆運動ニ付テハ之等ヲシ  
テ社會人心ノ不安ノ除去及國體ノ統一ニ寄與セシメ進ンデ國民ノ  
觀望昂揚ヲ圖ル如ク其ノ指導ヲ適切ニスルト共ニ有害ナルモノニ  
付テハ之カ取締ヲ嚴ニスベシ

第二十六條 重要生産事業阻害行爲ニ付テハ重要工場、事業場等ニ  
對スル監察内偵ヲ強化シ之カ動靜把握ニ努ムル應ニ其ノ他重要生  
産事業阻害行爲ノ早期偵察及従業員ノ離散逃避ノ防止ニ努ムルト

共ニ不穩分子ノ檢束取締ノ徹底ヲ期スベシ

第二十七條 各種聯絡活動ニ付テハ容疑者ノ檢束等ニ依リ聯絡網ヲ  
破壊スルノ外無線電話ノ利用又ハ出版物等ノ發布ニ依リ宣傳聯絡  
網を破壊等ノ發布ニ依リ宣傳聯絡網ニ對スル取締措置ヲ適切ナラシ  
メ併セテ破壊聯絡等ニ備ヘ其ノ對象トナルベキ重要警備對象物等  
ニ對スル警備措置ヲ強化スベシ

第二十八條 臨時經濟統制規程行爲ニ付テハ軍需物資、生産必需  
物資等ニ關スル統制違反行爲ノ取締ニ重點ヲ置キブローカー、商  
業者其ノ他違反行爲ノ虞アル者ノ監視ヲ嚴ニスルノ外經濟上ノ混  
亂ヲ誘發スベキ流言妄語等ノ取締ヲ勵行スベシ

第二十九條 前各條ニ掲グルモノノ外一般犯罪ノ豫防取締ニ付テハ  
必要ニ應ジテ兇暴悪質ナル刑事要觀察人等ノ豫防檢束、銃砲火藥類  
持込等ノ取締等適切ナル事前警備ニ依リ犯罪ヲ豫防スルト共ニ非  
常事態下ニ於テハ特ニ人心ノ不安混亂ニ乘ジテ行ハルル犯罪又ハ

之ヲ強化スル如キ組織ノ取替ヲ強化スベシ

第十條 重要警備對象物及主要警備地ノ總動員警備  
勤シルモノニシテ特ニ重要ナルモノ又ハ重要ナル  
長官之ヲ定ムベシ

一 貴國、本邦駐在外國大使其ノ他狀況ニ依リ必要ト認ムル人

二 重要官公衛

三 大臣、大臣等ノ官私邸

四 外國公館

五 工場、鑛山、事業場其ノ他重要生産施設

六 港湾、停車場、橋梁、車庫、飛行場其ノ他重要運輸交通施設

七 放送局、電信局、電話局、無線電信局其ノ他重要通信施設

八 電力施設、瓦斯施設、上水道施設其ノ他重要供給施設

九 食糧其ノ他重要物資貯蔵所

十 火藥類、石油其ノ他危險物貯蔵施設

十一 重要ナル銀行其ノ他重要金融施設

十二 其ノ他狀況ニ依リ必要ト認ムルモノ

第三十一條 重要警備對象物ハ左ノ二種ニ區分スベシ

甲 警察力ヲ以テシテ警護ヲ要スルモノ

乙 自衛警備ニ依ラシムルモノ

第三十二條 重要警備對象物ハ其ノ國家的重要性、社會情勢、地理  
的條件等各般ノ事情ヲ考慮シテ之ヲ定メ特ニ甲種重要警備對象物  
ニ付テハ其ノ數ヲ最少限度ニ止ムベシ

第三十三條 他官廳ノ官廳ニ屬スル重要警備對象物ノ決定及之ヲ警  
備ニ付テハ關係各廳ト協同ニ聯絡ノ上之ヲ行フベシ

第三十四條 重要警備對象物警備ノ爲警察官吏ヲ配置スル場合ト雖  
モ其ノ數ハ最少限度ニ止ムルヲ旨トシ狀況ニ應ジ適宜兵力低ヲ保  
持セシメ且警察職員等ヲシテ之ヲ補助セシムベシ

第六節 保安

第三十八條 警察活動ニ依ル保安ノ維持ヲ防止スル爲必要ニ應ジ外  
國人ノ出入國、旅行、外出等ノ禁止又ハ制限、官廳事務物件ノ運  
送内積又ハ積集、無制限積、暗証運信等之方通信手段ノ取締等ノ  
徹底ヲ期スベシ

第三十九條 新聞、雜誌、其ノ他ノ出版物ニ依ル保安ノ維持ヲ防止ス  
ル爲關係方面ト關係ナル出版物ヲ保持シ之ヲ檢閲ヲ嚴ニスルト共ニ  
新聞紙、雜誌、其ノ他ノ出版物ノ取締取締ヲ速切ニスベシ

第四十條 各種機密ニ被開スル者ニ關聯關係スル機密ノ維持ヲ防止  
スル爲定カ監督ヲ施行シ且機密ニ係ル圖書、物件、施設等ノ取扱  
又ハ監督ヲ嚴クシテムル如ク指導スベシ

第四十一條 國取別、不潔ナル談話又ハ高聲談話其ノ他一般民ノ  
日常生活ニ關聯關係スル機密ノ維持ヲ防止スル爲維持ナル指導ヲ  
期スベシ

第三十五條 地方長官ハ重要警備對象物ノ管理者又ハ所有者ニ對シ  
自衛警備ノ爲特設防護圍ノ設置、裝備、施設等ノ整備、自衛警備  
ノ方法及非常事態發生時ニ於ケル警察トノ聯絡方法等ニ付指導徹  
底シ所要ノ計畫準備ヲ爲サシメ置クベシ

第三十六條 重要警備對象物寄集セル地帯ニ對シテハ前各條ニ依ル  
ノ外状況ニ應ジ警察官吏ノ警備配置ヲ強化スベシ

第三十七條 主要警備地ノ總動員警備ニ付テハ特ニ左ノ各點ニ留意  
スベシ

- 一 總動員警備要員、總動員警備用設備資材ノ重點的整備
- 二 總動員警備要員、總動員警備用資材等ノ主要警備地ニ對スル  
應接ノ強化
- 三 總動員警備ニ協力セシムル團體等ニ對スル重點的指導
- 四 總動員警備訓練ノ徹底

第三章 各種非常事態ニ對スル總動員準備要領

第一節 沿岸警備

第四十二條 沿岸警備ハ警察ヲ主體トシ警防團ヲシテ之ヲ補助セシメ且必要ニ應ジ學校機關、神社、講堂等ノ能力ヲ得テ之ヲ行フモノトシ沿岸警備ノ爲特別ナル組織ヲ設ケザルモノトス

第四十三條 地方長官ハ沿岸警備ノ實施ニ當リ官民警備機關ハ國ヨリ一般住民ト雖モ國土防衛ノ精神ニ基キ斷乎トシテ自衛ノ擔當ニ出ツル如ク其ノ職務ヲ履行スル爲適切ナル指導ヲ行フベシ

第四十四條 地方長官ハ沿岸警備上重要ナル地域内ニ在ル警備機關ニ付其ノ組織、編成、運用等ヲ主トシテ沿岸警備ノ實施ニ適應スル如ク定ムベシ

第四十五條 地方長官關係海軍ヨリ要綱第四十三條第二項又ハ同第四十四條第二項ノ規定ニ依ル提示又ハ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ内容ヲ内務大臣ニ報告スベシ

第四十六條 地方長官ハ要綱第四十五條ノ規定ニ依リ特ニ設ケベキ監視哨ノ配置ニ付陸ノ關係陸海軍ト緊密ニ聯絡ノ上其ノ位置ヲ決定スルト共ニ必要ナル設備資材ノ整備、要員ノ選定等所要ノ準備ヲ爲シ置クベシ

第四十七條 地方長官ハ沿岸警備實施區域内ニ在ル者ニ對シ敵ノ攻撃ヲ發見シタル場合ニ於ケル陸海軍部隊、警察、警防團等ニ對スル聯絡ノ方法ニ付指導シ置クベシ

第四十八條 敵ノ攻撃ニ關スル警報ハ該報發、警備其ノ防護警備傳達ノ爲設ケラレタル有ツニル器具ヲ用フルト共ニ併セテ口頭ヲ以テ之ヲ傳達スルモノトス

前項ノ警報ノ傳達信號ハ並ニ警報ノ傳達信號ニ準ス  
警報ノ發令及解除號ニ警報ノ傳達ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ地方長官之ヲ定ムベシ

第四十九條 海上ニ對シ敵空襲ヲ實施スベキ時期及區域ハ内務大臣

臣ノ命ニ依ルベシ但シ區域ノ細部ニ付テハ地方長官之ヲ定ムルモ  
ノトス

前項ノ規定ニ依リ實施スベキ燈火管制ノ程度ハ防空法ニ據ル燈火  
管制規則ニ定ムル警戒管制乙ノ程度トス但シ前條ノ規定ニ依ル警  
報ノ發令アリタルトヤヨリ之カ解除ニ至ル迄ハ空襲管制ノ程度ト  
ス

第五十條 沿岸警備機關トシテ特ニ裝備スベキ物件ハ概ネ左ノ如シ

- 一 拳銃、獵銃、日本刀、竹槍其ノ他ノ武器
- 二 双眼鏡其ノ他ノ監視用物件
- 三 鐵兜、防毒面、警杖其ノ他ノ護身用物件
- 四 擔架、救急用藥品其ノ他ノ救護物件
- 五 搬運機、メカホン其ノ他ノ宣傳用物件
- 六 圖誌、地圖、器具其ノ他ノ工作用物件

第五十八條 重要ニ稱シテハ表面内面諸口共ニ懸垂標ニ各標ノ東情

第四章 應 急 警 戒

ニ其有發生ノ聯合ニ付テハ其ノ要領ニ付指畫シ置クベシ

應ニ依テハ其有警報要員其有警報用機材其有警報用器具其有警報用

第五十九條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

ニ應ニ依テ其有警報用機材其有警報用器具其有警報用

第六十條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十一條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十二條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十三條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十四條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十五條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十六條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十七條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十八條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第六十九條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第七十條 此ノ要員ハ前條ノ規定ニ付テハ警報用機材其有警報用

第五十四條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

五十五條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

五十六條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

五十七條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

五十八條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

五十九條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

ヲ維持シテハハ警備隊ノ設置ヲ精スルニシテ

六十條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

第七十一條 凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

行ハルルヲ以テ警備隊ニ當ル制隊警察官吏及取置警察官吏ハ何  
レモ之ガ充實ヲ圖リ制隊警察官吏ハ之ヲ集團的且機動的ニ運用シ  
最良ノ解散、首謀者ノ檢束等警備ノ防止、偵察ニ當ラシメ取置警  
察官吏ハ至察内偵又ハ内面工作等ニ當ラシムル如ク計畫準備スベ  
シ

第七十九條 警備ノ發生ニ際シ被害ヲ蒙ル虞アル重要ナル人又ハ施

設ニ對シテハ必要ニ應ジ警察官吏ノ警備配置ヲ増加シ併セテ之ガ

自衛警備ノ強化ニ付指導スベシ

第六十條 警備警備ニ當リテハ警備隊其ノ他ノ團體ハ之ヲ用ヒザル

ヲ本則トシ然レニ依リテ之ヲ用ツルノ止ムトキ適合ハ之ガ警備隊

ヲ補充ニスルト共ニ其ノ任務、配置場所等ヲ慎重考慮シ不測ノ事

態ノ發生ヲ豫防スルニ努ムベシ

第七十一條

凡有ハ不圖突進的ニ發生スルロイテナクテ以テ警備隊

總動員書信基本計畫」並「第二次內務省總動員書信期間計畫」  
 及昭和十三年五月二十三日內務省訓令第百四十九號「非常書信規程」  
 ハ之ヲ廢止ス

00

護警第一〇六八號

昭和十三年二月三日

渡久地警察署

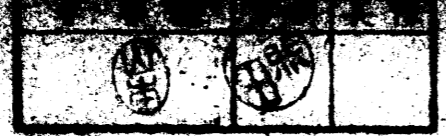
昭和  
 安受第566  
 448  
 步兵



沖繩縣警部  
 第七七部隊長  
 管内各町村長  
 各警務所長  
 (管内各警務所長及支中)

總動員書信規程

5



Vertical text on the left side, likely a list of recipients or administrative notes, including names like '渡久地' and '各警務所長'.

本訓練は沖路防務動員沿岸警備訓練実施要領ニ基キ將來  
 予想されるべき沿岸ヨリスル敵ノ攻撃ニ対シ軍ノ防衛力ヲ即應ニテ  
 眞ノ戦力ヲ發揮ヲ達スルナカラスル爲メ官民共ニ準備機關ノ協力且ツ  
 有機的ナル態ヲ備活勦ノ促進ト管下ニ於ケル地域的特性ヲ勘案  
 上實際的ニ訓練種別ニ併テ一般部民ノ敵愾心ノ昂揚ヲ圖リ  
 國土防衛ノ完備ヲ期セムトスルニアリ

第二期 訓練施行地域及期間

一 施行地域 管内全町村 (準備年度甲地域ニ屬ス)

二期 間 自二月 至三月 二月廿九日迄及履實施ス

1. 二月十二日 本部町幹部訓練

二月十四日 今帰仁村

二月十七日 伊江村

2. 二月二十一日 遊撃隊等準備業務別訓練

二月二十三日 本部町遊撃隊業務別訓練

二月二十七日 伊江村 遊撃隊業務別訓練

三月十日 本部町 上記ニ依リ業務全般ニ付テ

三月十二日 今帰仁村 履實施ス

三月十四日 伊江村

4. 三月十六日 管内全域ニ亘リ綜合訓練ス

右各訓練種別中ニ防空警備業務令アリタル場合ハ訓練ヲ中止シ警  
 報解除ノ翌日ヨリ開始ス

第三 訓練準備機關

一 渡久地警備隊等

二 各町村警備隊

三 町村役場各部 消防 警察 食糧 衛生 伊江町警備台等  
 中ニ自衛訓練ヲ實施スルモノトス

第四 訓練課目

一 非常事態下ニ於ケル



一 混亂防止

二 流言蜚語取締

三 監視警戒

四 巡察警戒

五 救護

六 重要物資備蓄及防護

七 海上対上ル燈火管制

八 自衛抵抗

九 訓練要領

(一) 一般要領

一 沿岸警備機関幹部訓練方針

二 各身務・團スル指揮及指導能力向上

三 警備力・綜合的且ツ主要の運用

四 沿岸防務に於テアル陸海軍部隊トノ連携協調

（現狀に於テハ沿岸警備機関幹部訓練に關シテハ、陸海軍各部隊間ニ於テハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（流言蜚語等ハ、其ノ傳播ノ防止ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（監視警戒ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（巡察警戒ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（救護ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（重要物資備蓄及防護ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（海上対上ル燈火管制ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（自衛抵抗ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（訓練要領ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（一般要領ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（沿岸警備機関幹部訓練方針ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（各身務・團スル指揮及指導能力向上ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（警備力・綜合的且ツ主要の運用ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

（沿岸防務に於テアル陸海軍部隊トノ連携協調ニテハ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ）

一 沿岸警備機関幹部訓練方針 第四訓練課圖ノ全部ニ付キ詳成ス

二 警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

三 沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

四 沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

五 沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

六 本訓練ノ幹部訓練ヲ除クシテ、必要ノ場合ニ於テハ、互ニ協力スルベシ

七 敵情ノ想定ヲ具シ、沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

八 敵情ノ想定ヲ具シ、沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

九 敵情ノ想定ヲ具シ、沿岸警備機関各幹部ハ部隊毎ニ指導・參徹訓練ノ徹底ヲ期スル如ク豫メ計畫シ置クコト

（四）業務要領

一 混亂防止

二 流言蜚語取締

三 監視警戒

四 巡察警戒

五 救護

シ假若有人等ヲ潜入セルノ訓練ス

二監視警戒

- (一) 監視及警戒ニ陸海軍ニ於テ整備ニ克ク連絡ヲ維持シ協力ヲ得テ統一且ツ組織的ナラシム。監視位置及警戒区域並ニ其報連絡系統等ハ別紙(附圖)ニ示ス。
- (二) 監視所ハ極低高度等ニ施設ヲ及シ其ノ行動ノ軌道ニ分ルコトヲ監視所ハ長一監視員四通信連絡員ニテ編成シ専任トス。
- (三) 監視訓練ニ一般守則及特別守則ヲ設ケテヲ熟知セシム。
  - 一一般守則
    - (1) 監視員ハ絶ヘズ海上及上空ヲ監視シ且ツ其細音ニ注意ス。
    - (2) 監視員ハ船舶及航空機ヲ発見シ又ハ其ノ音響ヲ聞キル時ハ直チニ報告ス。
    - (3) 監視員ハ航空機ノ航界ヲ越テ去リタルトキ亦同ジ。
    - (4) 監視員ハ船舶又ハ航空機ニ関シ報告スルト雖モ監視ヲ中絶ス。
    - (5) 監視員ハ方位判定ノ規準トナルベキ地点及其ノ方位ヲ熟知ス。
    - (6) 監視員ハ附近ニ在ル離島ノ距離及山ノ高サ等ヲ熟知ス。

二特別守則(監視位置ヲ審査シ上級部別途計畫ス)

(四) 情報蒐集報告及連絡

- 一 情報通信ハ電音等ヲ通信手話ニ依ルテ原則トスルモ之ヲ施設ナキ所ハ傳令連絡ヲ次テ電音等ヲ末旨ヲ連絡ニ尚ホ未之等手話等ノ破損ヲ予想シ騎馬等ノ次テ計畫訓練ス。
- 二 情報報告報告ノ要領ハ左ニ依ル
  - (1) 発見監視所名
  - (2) 方位
  - (3) 備後監視所云々
  - (4) 発見時刻
  - (5) 発見方向
  - (6) 艦船種又ハ艦船數(或ハ機數)
  - (7) 進行方向
  - (8) 其ノ他行動
- 三 監視所ノ何科ノ海上
- 四 監視所ノ何種ノ艦船又ハ大型飛行機ノ何隻(何機)等トス
- 五 東或ハ伊江各方面等ト方位又ハ地名等ヲ示ス
- 六 敵味方不明等ノ別其他疑シキ事等ヲ事項ヲ簡明ニ報告ス

(五) 監視警戒並ニ陸海軍連絡等ハ右各号訓練ノ外防空監視哨(本部監視哨)ヲ極力活用ス

三 迎撃警戒

迎撃警戒ハ長一警戒戒四ヲ以テ編年(全警戒備員交々勤務  
セシム)シ主トシテ民心ノ安定指導ヲ自達シ以テ島部及沿岸一帯  
ヲ迎撃警戒スル外自衛ニ依リ難キ警戒備員対象物等ニ対シ  
時々迎撃警戒ニ備ラシム

四 敵報

敵報ニ関スル警戒報ハ辨報警戒鐘其ノ他防空警戒報傳達  
ノ後設ケラレタル有エル器具ヲ用フルト共ニ併セテ口頭ヲ以テ之ヲ  
傳達シ一般ニ周知徹底ヲ圖ルコト  
◎但シ本訓練ニ於テハサイレンヲ使用セズ訓練ノ語ヲ冠スルニトス  
前項ノ警戒報傳達ノ信號ハ空襲警戒報ノ信號ニ準ズ  
五 待避及緊急避難

(1) 待避 敵ノ上空又ハ海上ヨリスル攻撃ニ対スル待避ノ方法或ハ統籌  
ヲ後ケタル場合ノ地形地物ノ利用等今次空襲ノ体験ヨリ  
再檢討シテ臨機適切ナル待避ヲ演練ス  
(2) 緊急避難 緊急避難予定地ヲ一般ニ周知徹底セシメ之ガ實施  
アリタル場合混雜スルコトナク尋常ニ行動スル如ク演練ス

◎本訓練中ニ防空壕ノ整備措置ヲ促進スルルヲ第一團體ニ  
対シ強要セシム

六 海上ニ対スル燈火管制

海上ニ対スル燈火管制ハ現ニ實施中ニ付キ之ガ計畫訓練ハ省略スルモ本  
期間中ニ監視及送受警戒機ヲ以テ指導ヲ取極ニ備ラシム  
ニ重要要領ヲ備対象物

各町村役場 郵便局 食糧倉庫 本港防 港務物産倉庫 伊江  
燈台等ハ本港中 自衛訓練ヲ實施セシムルニトス

八 救護

空襲時ニ於テハ医療救護ノ重要要領ニ關シテ部隊軍医官又ハ適當ナル地方医師  
ニ依頼シ之ガ指導ヲ受ケシム。尚ホ非常事態下ニ於ケル死  
傷ノ收容 負傷者ノ救急手置(縮帯法、人工呼吸法、止血法等)及救  
護隊ノ搬送連絡等ヲ訓練ス

九 自衛抵抗

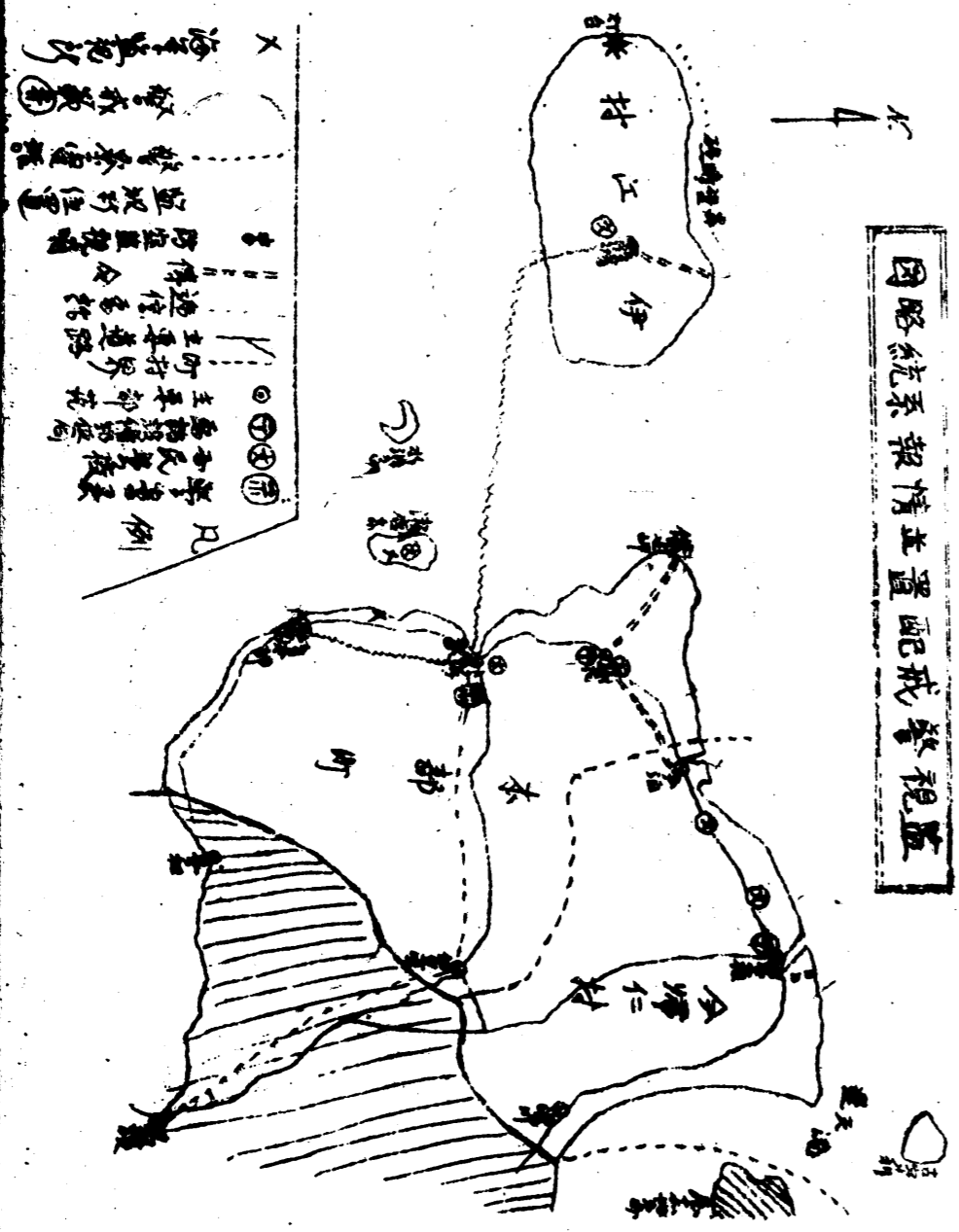
国土防衛ノ精神ニ基キ断乎トテ自衛ノ措置ニ出ルル如ク敵隊心ノ停揚  
ヲ阻達シテ自衛訓練ヲ行フ  
ノ準備要領相互ガ官民防衛ノ中核ナル事ヲ認識セシメ指導表  
ノ挺身敢闘ヲ強調ス  
又 緊急備員ニ対シ銃斗 銃彈ヲ實施シ痛銃ノ操作等ヲ教育ス

日竹檢訓隊ヲ安置ス  
 歩兵隊數ヲ爲シ巡シ歩兵隊中若蘇ノ要領ニ準シ監視警戒班  
 ヲ教育ス

第六 訓練實施上ノ留意事項

- 一 各山村ハ幹部訓練ニおケル 留意事項ハ、其ノ他ニ付キ事前ニ準  
 備計畫シキラコト
- 二 本訓練ニおキテ、警防團及ニ対スル訓練者ハ、別途縣ヨリ所村ニ交付ハ  
 沿岸警備訓練出發者ヨリ補給等ヲ考慮、上適宜所村ヨリ  
 取出ノコト
- 三 本訓練ヲ通ジテ、巡シ防團及ニ對シテ強ク、固ク極力方策ヲ講ズル也ノ  
 トス

因略統系報情配置警戒監視



球参情第十七號

國內輿論指導方針ノ件通牒

昭和二十年二月七日

球第六九部隊参謀長

球第七〇七部隊長殿

敵ノ呂宋島上陸ニ依リ愈々重大化セル現段階ニ即應スル  
爲定メタル國內輿論指導方針ノ要旨在リ如シ

我が戦争ノ目的ヲ闡明スルト共ニ敵ノ世界制覇、日本民族ノ征服ノ野望ヲ剔抉  
シ本戦争ノ歸結ハ勝利カ然ラズンバ滅亡ナルコトヲ覺悟セシムルト共ニ正義ノ戦争  
以上一億ノ敵斗ニ依リ勝利ハ必ズ我ニアル事ヲ確信セシム

我々苦シキトキハ敵モ苦シキモノナレバ飽ク迄頑張り抜クモノガ勝利ヲ得ルモノ  
ナルコトヲ強調シ戦局ノ進退ニ喜憂セズ有ユル生活上ノ困難ヲ脱シツツ  
最後ノ勝利ヲ期シ明朗敵斗スベキコトヲ徹底セシム

三政府ノ施策ニ呼應シ一億体當リ精神ヲ以テ職域ニ敵斗シ戦力ノ増強  
ヲ圖ルベキコトヲ強調ス

294



# 國頭支隊秘密戰大綱

昭和二十年二月一日

## 第一 總則

- 一 本大綱、球作命之第五號ニ基テ、支隊管内軍官民ニ對スル宣傳、實施及防諜、指導等並ニ遊軍秘密戰準備ノ基本ヲ規定ス。本綱中、宣傳防諜、遊軍秘密戰ハ、謀報謀略ト共ニ之ヲ秘密戰ト呼稱ス。
- 二 秘密戰ハ國家總力戰タル今日武力戰ニ即應不可致ノ勤務トナリ依戰ヨリ戰斗ヘト全面的乃至終期的役割ヲ要請サレアリ。
- 三 秘密戰ハ各部門ガ渾然一體トナリテ初メテ全能ヲ發揮シ得ベク本勤務實行ニ當リテハ科學的態度ヲ以テ望臨シ且ツ組織的連續的ナラシムルコト緊要ナリ。
- 四 秘密戰效果ノ發揚ニハ長期ヲ經過スルコトヲ以テ當初ニ於ケル任務附與テ慎重ナラシメ作戰(戰斗)ト吻合一體ナラシムル著意緊要ナリ。
- 五 隊内秘密戰勤務ト特種機關ヲ以テスル秘密戰勤務ハ相互連絡ヲ遂ゲ或ハ補助シ或ハ利用シテ初メテ本勤務ノ完璧ヲ期スルモノナルヲ緊密ナル連絡保持ヲ要ス。
- 六 秘密戰勤務ノ對者モ亦努ムル所必ズ彼方ヨリ其ノ間對者ノ行動

一、壓迫制御の目的ヲ貫徹セシムルモノハ實ニ秘密戰ニ任ズルモノ、攻  
的的精神ヲ發露スアリ、從ツテ本業務從事者ハ積極細心剛膽能ク  
任ラ感ニ苦難ニ耐ヘ名利ヲ忘レ礎石タルニ安シ以テ大義ニ生クル心構  
秘戰ニ從事スルモノハ能ク萬般ノ事情ニ通ズルト共ニ經驗ヲ重ネテ  
メテ成績ヲ擧ゲ得ベシ又勤務性質上秘密保持ノ絕對重要ナル鑑  
ニ人選監督特ニ緊要ナリ

### 第三 謀報勤務方針

- 一、謀報ハ作戰ニ先行スルモノナリ以テ企圖スル作戰指導ノ方向ヲ明確ニ把握シ全般ノ態勢ヲ明シ之ニ合致セシムル如ク指向ス之が爲メ勤務者ニハ時々最高施策ヲ明示教育ス
- 二、組織ナル謀報網ヲ構成シ適切ナル任務附與ト相俟ツテ諸現象ヲ正確ニ收集ス之が爲メ要所ニ分子ヲ獲得シ置クト共ニ要所ニ直接機關員ヲ推進配置ス
- 三、防諜ノ指向目標ハ情勢ニ應ジ交換セラレベキ敵ノ本攻裏前後ニ分テ概テ左記ノ如ク指向スルヲ要ス  
（一）本攻裏前（對内諜報）  
（二）住民思想動向特ニ敵世分子有無  
（三）政治經濟諜報

見本攻裏開始後  
（一）軍事諜報（敵情偵知）即チ本來ノ任務ニ邁進ス

### 第四 宣傳勤務方針

- 一、宣傳ハ戰鬥前後ヲ通ジ軍官民ノ戰意ヲ昂揚シ戦力ヲ培養維持ヲ策ス從ツテ作戰準備間ハ報道宣傳ニ努メ戰鬥中ハ謀略宣傳ヲ併用ス
- 二、宣傳ヲ適切ナラシムルヲメニ諜報ト密接ナラシメ其ノ急所ニ應ズル如ク努力ス
- 三、宣傳手段ハ單ノ指示セル要領ニ依ル外官民有力者（指導階級）並ニ全ニ收覽スルヲ要ス之が爲メ平素情報ヲ注入シ其ノ指導力ヲ附與ス
- 四、特別ノ事象發生（空襲或ハ疎開）ニ就テハ適時適切ナル流言封ジノ先制宣傳ヲ實施ス
- 五、急速宣傳ノ爲メ掲示板利用印刷物配布ヲ準備ス

### 第五 謀略勤務方針

一、謀略ハ大掛リ而シテ綿密周到ナル準備ニ依リ確實ナル基礎ヲ依リ是後實施スルニ非サレバ顯著ナル成果ヲ期待シ得サルヲ以テ専ラ軍行ノ謀略

一 追隨スル準備ニ止局部の現實的謀略ヲ策ス  
 謀略實施ハ宣傳機關ト關係下可分ナルヲ考慮シ平素之ヲ素地培  
 養ニ努ム

第四 防諜勤務方針

一 防諜ハ本來敵ノ諜報宣傳謀略ノ防止破摧ニアル本島、如ク民度  
 低ク且ツ島嶼ナルニ於テハ寧ろ消極的即チ軍事初メ國內諸策漏  
 洩防止ニ重点ヲ指向シ戰局ノ推移ニ呼應シ積極防諜ニ轉換スル要  
 二 防諜徹底ハ防諜組織網(防諜規程ニ依ル軍官民機構)ニヨル其ノ發動  
 ニ當リテハ他ノ秘密機關ト連絡ヲ密ニシ一途ノ方針ニ基キ紛糾間隙ヲ  
 防止ス  
 三 敵ノ來スベキ思想防諜ニ對シテハ予メ對策ヲ探究シテ未然ニ防諜策  
 ヲ構シ潛入諜者及要地防諜ニ就テハ直接或ハ憲兵警察ト連絡  
 之ヲ取締ラ期ス

球七〇七一防第一一號

秘密戰實地報告並ニ實施豫定計畫ノ件報告

昭和二十一年三月五日

球七〇七一部隊長

球第一六一六部隊長

球命令之第五號ニ基キ首題ノ件別紙ノ通り報告ス



秘密戰、海員施報告書 (三月中)

團 頭 支 隊  
(隊第七〇七部 隊)

演 題	日 時	場 所	參 會 者	効 果
戰意宣傳(宣傳) 防諜思想普及防諜)	一月十日	今歸仁村 吳我山	薩原班長級 約三十名	顯 著 (田邊幸治加)
	一月十五日	本 部 町 伊豆味	右 全 五〇名	右 全
	一月二十日	名護町 東江國立校	一般町民 約一〇〇名	右 全 デマ封じの効 有 大ナリ

備考

主権ハ何レモ民側ニ於テ實現  
又一般ニ戦局認識ニ吸クシテアリ聽講率大

海員施報告書	三月中	團 頭 支 隊	(隊第七〇七部 隊)
演 題	日 時	場 所	參 會 者
戰意宣傳(宣傳) 防諜思想普及防諜)	一月十日	今歸仁村 吳我山	薩原班長級 約三十名
	一月十五日	本 部 町 伊豆味	右 全 五〇名
	一月二十日	名護町 東江國立校	一般町民 約一〇〇名
			右 全 デマ封じの効 有 大ナリ



遊惠秘密戰幹部演習	三月二十三日	伊豆大附近
戰意昂揚(宣傳)	三月二十五日	名護町華僑國民學校
防諜思想普及(防諜)	三月二十六日	恩納村恩納國民學校
謀報分子獲得懇談會	三月二十六日	金城村金城國民學校
遊惠秘密戰對外幹部教育	自三月二十五日 至三月三十日	名護町華僑國民學校

備考  
戰局、推移に伴い適宜変更實施スルモノトス

秘密戰實施報告(四月中旬) 案

実施項目	日時	場所	担当者	備考
防諜思想普及	一月十日	金城村	金城村長	町長
謀報分子獲得	一月十日	金城村	金城村長	町長
遊惠秘密戰幹部教育	一月十日	金城村	金城村長	町長

備考  
1. 主として金城村  
2. 金城村長  
3. 金城村長

遊惠秘密戰幹部演習

戰意宣傳場(宣傳)

防諜(防諜)講演會

諜報分子獲得懇談會

遊惠秘密戰對外幹部教育

三月二十五日 伊豆大野

三月二十五日 各護町幸喜國民學校

三月二十六日 全本村幸喜國民學校

三月二十六日 全本村幸喜國民學校

自三月二十五日 至三月三十日 各護町幸喜國民學校

備考

戰局推移に伴い適宜変更實施スモトス

収容本定規報告(三月十日) 海軍

11

交際日

場所

担当者

備考

我々山口(防諜) 防諜懇談會

三月十日 星野山

防諜所長 級約三〇名

防諜所長 級約三〇名

三月十日 伊豆大野

右同

右同

三月十日 東洋館

一般民

右同

備考  
1. 主山後(防諜) 防諜懇談會  
2. 此二取(防諜) 防諜懇談會  
防諜懇談會  
防諜懇談會  
防諜懇談會

三月十日

三月中... 陸軍

陸軍

三月十日... 陸軍

三月十日

三月十日

陸軍

三月十日... 陸軍


(陸軍)

